

## ■ 平成17年度事業概要 ■

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	915点
●寄贈資料受入れ総数（同上）	2,259点
	計 3,174点

（内訳は、統計・資料の「資料収集状況」欄を参照）

整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲覧	利用者 延べ 2,182人

### II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

#### 1 展覧会事業

(1) 常設展「北海道文学の流れ」（平成17年11月3日から「北海道の文学」に変更）

会期	通年
会場	北海道立文学館常設展示室
入場者	6,389人

道立文学館開館10周年を機会に、常設展の大幅な展示替えをした。また、標題を「北海道の文学」に改めた。

以下\*印の項目は、リニューアルした展示編成の各章題である。続いて主な展示資料または取り上げた人物等を掲げた。〔 〕内は監修者名である。

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

#### \* 20世紀への胎動

久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎『札幌農学校』

#### \* 助走期の苦闘

有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」

#### \* 漂泊と彷徨

国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿

#### \* 道産子作家の誕生

武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡

#### \* 逆流のさなかで

小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿

#### \* モダニズムの台頭

伊藤整「文学的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿

#### \* 戦火の中で

辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画

\* 復興と再生

畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品

\* 成長期の精華

雑誌「北海文学」（原田康子「挽歌」掲載）、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊（三浦光世筆）

\* 変転する現代

高橋揆一郎『『伸予』覚え書き』自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

\* 「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち

吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」

\* 「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち

更科源蔵「河童十二月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿

\* 「現代の詩」の新しい可能性を求めて

原子修自筆色紙

短歌、俳句、川柳、児童文学については、系譜図の更新やレイアウトの変更など、一部を改訂した。

〈北海道の短歌〉〔山名康郎〕

\* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

\* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

\* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

\* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

\* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島滕六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田垂浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

\* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

\* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか

\* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

\* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、  
田中五呂八ほか

\* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

\* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

\* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

\* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

\* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

※以上のほか、展示室内にコンピュータを設置し、「データベース北海道の文学碑」を公開できるようにした。

(2) 企画展・特別企画展（※印は財団独自の事業）

①「神沢利子の世界～北を想う・北を描く～」

会 期 平成17年7月9日（土）～8月28日（日）（44日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,833人

戦後を代表する児童文学者の一人、神沢利子の全体像を紹介した。幼少期を札幌および樺太で過ごした神沢の文学には、北の大地における自然の営みと、他の命を犠牲にして自らを生かすことの重みが底流にある。これらを主テーマに据え、絵本原画40点、自筆原稿15セット、関連の写真など計150点の資料を公開するとともに、作家へのインタビューを収録したDVD放映を行った。児童文学という枠を越えて、多くの来場者の共感と賛同を得た展覧会となった。

②「原田康子の北海道～小説「挽歌」から50年～」

会 期 平成17年9月10日（土）～11月13日（日）（57日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 2,148人

北海道在住の作家、原田康子の50年にわたる文業と足跡を紹介した。全国的なブームを巻き起こした「挽歌」のコーナーでは、自筆原稿や刊行された書籍、掲載されていた雑誌「北海文学」などを展示。他のコーナーでは、現在の活動に至るまでの作品群と、新聞連載小説の挿絵原画や各時代のプライベートな愛用品（レコード盤など）や写真を展示した。北海道にこだわり、北海道から全国に発信し続ける作家の

集大成となる内容に、道内外の多くの観覧者から再読したいなどの声が寄せられた。

(3) 企画展

①「現代少年少女詩・童謡詩展」

会 期 平成17年4月23日(土)～6月12日(日) (44日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 1,200人

群馬県立土屋文明記念館の企画協力により開催された。少年少女詩・童謡詩を、作者本人による直筆原稿と作品解説に加え、イラストレーターによる絵とあわせて紹介。純粋な子ども心を思い出させる作品の数々に、世代を越えて心が癒される内容だなどの評価を得た。

②「サハリン追跡～残留朝鮮人の軌跡～」※

会 期 平成17年11月20日(日)～1月16日(日) (41日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 1,022人

第2次大戦後にロシア・サハリンに残された朝鮮半島出身者を撮り続けている大阪在住の写真家・片山通夫の作品を展示した。モノクローム80点の写真には、終わらない「戦後」と苦悩する人々の姿が写されており、厳しい歴史と現実が過去から現在にわたって存在することを顧みるうえで、貴重な機会となった。

2 教育普及事業 (※印は財団独自の事業)

(1) 文芸講演会 (会場はいずれも北海道立文学館講堂)

① 演 題 「私の原風景と作品」

講 師 神沢 利子 (児童文学作家)、伊藤 英治 (編集者)、柴村 紀代 (児童文学研究者)  
日 時 平成17年7月10日(日) 14時  
入場者 100人

② 演 題 「『挽歌』から『海霧』まで」

講 師 原田 康子 (作家)、岩淵 啓介 (フリーライター)  
日 時 平成17年9月18日(日) 14時  
入場者 98人

(2) 文芸セミナー (会場はいずれも北海道立文学館講堂)

① 演 題 「詩と私」

講 師 新妻 博 (詩人)  
日 時 平成17年5月15日(日) 14時  
入場者 35人

② 演 題 「多民族社会・サハリンのいま」

講 師 片山 通夫 (フォトジャーナリスト)、金 春子 (サハリンテレラジオ公社局長)  
日 時 平成17年11月20日(日) 14時  
入場者 66人

- ③ 演 題 「作家・和田芳恵を語る～生誕100年を記念して～」  
講 師 木原 直彦（文学史家）  
日 時 平成18年2月11日（土・祝）14時  
入場者 42人

(3) 文芸講座等

- ① 講 演 「原田康子さんと私」※  
講 師 加藤 幸子（作家）  
日 時 平成17年9月10日（土）10時30分  
会 場 北海道立文学館講堂  
入場者 55人
- ② 「岩崎伝札幌鬼剣舞」※  
日 時 平成17年10月2日（日）14時／15時30分  
会 場 北海道立文学館サンクンガーデン  
入場者 63人
- ③ 「伊藤整生誕100年記念講演会」※  
講 師 アン・シェリフ、ウィリアム・タイラー  
日 時 平成17年6月21日（火）18時  
会 場 北海道立文学館講堂  
入場者 14人
- ④ 講 演 「私の小説と北海道」  
講 師 吉村 昭（作家）  
日 時 平成17年11月2日（水）17時30分  
会 場 ホテルライフオーブ札幌  
入場者 180人
- ⑤ 「展示室たんけん～いわさきちひろ展展示解説～」  
説明者 阿部かおり（当館学芸員）  
日 時 平成18年3月12日（日）11時／14時  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 30人

(4) 映像作品鑑賞のつどい（会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- ① 作 品 「古都」  
日 時 平成17年4月17日（日）13時30分  
入場者 75人
- ② 作 品 「北極のムーシカ ミーシカ」  
日 時 平成17年8月7日（日）13時30分  
入場者 45人

- ③ 作品 「挽歌」  
 日時 平成17年10月23日（日）13時30分・11月6日（日）10時／13時30分  
 入場者 79人・167人
- ④ 作品 「鞍馬天狗～角兵衛獅子～」  
 日時 平成17年12月11日（日）13時30分  
 入場者 73人

(5) インテリジェント・スクール※

「小説『海霧』の『完結』をめぐるって」

- 講師 神谷 忠孝（当館理事長）  
 日時 平成17年10月22日（土）14時  
 会場 北海道立文学館講堂  
 入場者 52人

(6) ファミリー文学館

① 「第4期・夏休み文学道場～中・高生のための創作講座～」

- 期間 平成17年7月27日（水）～7月29日（金）  
 講師 加藤 多一（児童文学作家）、吉川 慶子（國學院短期大学講師）  
 森 雅之（漫画家）、鈴木 浩（当館主任研究員）  
 会場 北海道立文学館講堂  
 参加者 延べ50人

② 「春を待つ子どもたち～いわさきちひろ複製画展～」

- 期間 平成18年2月25日（土）～3月21日（火・祝）（21日間）  
 会場 北海道立文学館特別展示室  
 入場者 1,377人  
 併せて「展示室たんけん」（前述 いわさきちひろ展展示解説 3月12日）を実施。

(7) 文学館ふれあいフェスタ

子ども版画教室～エクスリブリス（蔵書票）作りにチャレンジ～

- 日時 平成18年1月6日（金）～8日（日）  
 講師 田苗 恵（版画家・手作り絵本作家）  
 会場 北海道立文学館講堂  
 参加者 延べ57人

(8) ～わくわく～こどもランド※

- 期間 平成17年4月～平成18年2月（原則：各月第2土曜日・全14回）  
 会場 北海道立文学館講堂  
 後援 札幌市教育委員会、財団法人道銀文化財団  
 出演 山の手図書館「おはなしかご」ほか  
 入場者 926人

(9) 文学館ウィークエンド・カレッジ※

期 間 平成17年4月～平成18年3月（原則：各月第2、4土・日曜日）

会 場 北海道立文学館講堂 受講者 延べ 543人

内 容	(前期) 19世紀イギリス文学の旗手たち	平 倫子 (北星学園大学教授)
		安藤理恵子 (公立小学校教諭)
		高橋 晶子 (専修学校講師)
	歌って学ぼうアイヌ語のしくみー妹の力ー	深尾 加那 (アイヌ文化研究)
	韓国の街角のことばと文化を学ぶ	林 漢春 (札幌大学大学院修了)
	絵本で始めるフランス語	笠井 美希 (フランス文化研究)
	続・「幸田露伴の時代」を読む	日沼 滉治 (国文学者)
	イタリア文学講読	工藤 知子 (イタリア文学者)
	ロシア文学講読	工藤精一郎 (ロシア文学者)
	(後期) 北海道の児童文学前史	佐藤 将寛 (浅井学園非常勤講師)
		小笠原治嘉 (中国児童文学研究)
		横田由紀子 (北海道児童文学研究)
		谷 暎子 (北星学園大学教授)
		柴村 紀代 (藤女子大学教授)
	現代詩を読むためのワークショップ	高橋 秀明 (詩人・文芸評論家)
	韓国の街角のことばと文化を学ぶ	林 漢春 (札幌大学大学院修了)
	イタリア文学講読	工藤 知子 (イタリア文学者)
	ロシア文学講読	工藤精一郎 (ロシア文学者)

(10) 文学館コンサート※

① 胡弓と朗読の夕べ

日 時 平成17年9月23日 (金・祝) 18時30分

演奏等 福本 夢 (胡弓奏者・作曲家)、館野 直光 (元NHKアナウンサー)

入場者 54人

② ロビーコンサート「若狭弘樹ギターリサイタル」

日 時 平成17年9月30日 (金) 18時30分

演奏者 若狭 弘樹 (ギター)

入場者 65人

③ ロビーコンサート「Power of Brass／あいの里金管五重奏団演奏会」

日 時 平成17年12月17日 (土) 18時30分

演奏者 あいの里金管五重奏団

入場者 48人

(11) シネマラソンin文学館

日 時 平成17年9月3日 (土)～4日 (日) 14時～6時

会 場 北海道立文学館講堂

作 品 (第1部) 14時～21時

①「ドン松五郎の生活」

②「お嬢吉三」

③「猟奇的な彼女」

(第2部) 22時～6時

①「初恋・地獄篇」

②「鉄道員」

③「灰とダイヤモンド」

④ショートフィルム(実験映画)

入場者 延べ129人

### III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「神沢利子の世界」関連資料調査
- ② 特別企画展「原田康子の北海道」関連資料調査
- ③ 企画展「現代少年少女詩・童謡詩展」関連資料調査
- ④ 写真展「サハリン追跡～残留朝鮮人の軌跡～」関連資料調査
- ⑤ 特別企画展の図録作成に要する調査
- ⑥ 石川啄木関連資料調査
- ⑦ 池澤夏樹関連資料調査

### IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 児童文学者協会北海道支部  
「北海道児童文学学校」(原則として4月～3月の第2、4金曜に開校 北海道立文学館講堂)
- ② いろは俳句会  
(平成17年4月19日、7月12日 北海道立文学館講堂)
- ③ 高等学校文化連盟図書専門部専門委員会  
(平成17年5月18日 北海道立文学館講堂)
- ④ 氷原帯俳句会  
(平成17年5月29日 北海道立文学館講堂)
- ⑤ 斎藤茂吉記念第12回中川町短歌フェスティバル(中川町教育委員会主催)  
(平成17年6月1日～7月20日 中川町教育委員会)
- ⑥ タンザニア文化交流実行委員会  
「タンザニアの美と詩」企画展  
(平成17年6月21日～30日 9日間 北海道立文学館特別展示室)
- ⑦ 宮沢賢治札幌セミナー実行委員会  
「宮沢賢治札幌セミナー」  
(平成17年7月16日 北海道立文学館講堂)
- ⑧ 日本学術会議 講演会及びシンポジウム(日本学術会議・北海道大学主催)



- (平成17年8月8日～9日 北海道大学学術交流会館)
- ⑨ NHK文化センター朗読教室(松井信子クラス)  
公開朗読会「北海道ゆかりの文学を読む」  
(平成17年10月16日 北海道立文学館講堂)
  - ⑩ 中央図書館おはなしかご  
「大人が楽しむおはなし会」  
(平成17年10月29日 北海道立文学館講堂)
  - ⑪ とうべつルネッサンス実行委員会  
町民劇「石狩川」上演事業  
(平成17年11月6日 当別町総合体育館アリーナ)
  - ⑫ 小嵐九八郎講演会実行委員会  
「小嵐九八郎講演会」  
(平成17年11月13日 北海道立文学館講堂)
  - ⑬ 絵本・児童文学研究センター  
第10回文化セミナー「読む 聞く」  
(平成17年11月20日 小樽市民会館)
  - ⑭ 劇団 風の子北海道  
宮沢賢治作品連続公演「どんぐりと山猫」「お月さまとゴーシュ」  
(平成17年12月14日/17日 札幌エルプラザ/ターミナルプラザことにパトス)
  - ⑮ NPO法人アーティストック アコード アソシエーション  
～北の潮騒がきこえる～「利尻…詩と海藻押し葉展」  
(平成18年1月21日～2月5日 14日間 北海道立文学館特別展示室)
  - ⑯ NPO法人アーティストック アコード アソシエーション  
～北の潮騒がきこえる～「利尻…詩と海藻押し葉展」記念講演会  
(平成18年1月28日 北海道立文学館講堂)
  - ⑰ 山の手図書館おはなしかご  
「春をよぶ大人が楽しむおはなし会」  
(平成18年3月9日 北海道立文学館講堂)

## V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。
- ② 「北海道文学館報」第61号(平成17年4月)、第62号(平成17年7月)、第63号(平成17年11月)、第64号(平成18年1月)の編集発行。

## VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「神沢利子の世界～北を想う・北を描く～」図録の刊行。
- ② 特別企画展「原田康子の北海道～小説「挽歌」から50年～」図録の刊行。

## VII 北海道立文学館の管理運営受託事業

寄附行為第4条第7号による北海道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に交わされた委託契約（4月1日締結）に基づき、適切に行った。

## VIII その他の付帯事業

### ① 博物館学芸員実習生の受け入れ

- ・平成17年11月に北海道大学学生の「博物館実習（見学実習）」で16名を受け入れた。
- ・平成18年2月に札幌学院大学及び聖徳大学からそれぞれ1名ずつ「博物館実習（実技実習）」（10日間）を受け入れた。

### ② 古書バザールの実施

平成17年4月～同18年3月、文学館ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）。

### ③ 北海道立文学館開館10周年記念式／常設展リニューアル・オープニングの実施

日 時	平成17年11月2日（木） 15時～
会 場	・北海道立文学館開館10周年記念式 北海道立文学館講堂 15時 ・常設展リニューアル・オープニング 北海道立文学館地階ロビー 15時50分